

本原原発第29号

令和3年12月22日

原子力規制委員会殿

名古屋市東区東新町1番地

中部電力株式会社

代表取締役社長

林 欣吾

社長執行役員

浜岡原子力発電所発電用原子炉設置変更許可申請書

(3号発電用原子炉施設の変更)

添付書類の一部補正について

平成27年6月16日付け、本原原発第7号をもって申請しました浜岡原子力発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(3号発電用原子炉施設の変更)の添付書類を下記のとおり一部補正いたします。

記

浜岡原子力発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(3号発電用原子炉施設の変更)の添付書類六を別添のとおり補正する。

以上

別添

添付書類六の一部補正

添付書類六を以下のとおり補正する。表及び図については，別表のとおり読み替える。

頁	行	補正前	補正後
6-5-46	1行目	(記載追加)	別紙 1 の記載を追加する。
6-5-100 と 6-5-101 との間		(記載追加)	別紙 2 の表を追加する。
6-5-236 と 6-5-237 との間		(記載追加)	別紙 3 の図を追加する。

(表)

補正前	補正後
第 5.2.5- <u>24</u> 表～第 5.2.5- <u>31</u> 表	第 5.2.5- <u>25</u> 表～第 5.2.5- <u>32</u> 表

(図)

補正前	補正後
第 5.2.5- <u>55</u> 図～第 5.2.5- <u>72</u> 図	第 5.2.5- <u>57</u> 図～第 5.2.5- <u>74</u> 図

5.2.5.2.6 標準応答スペクトルによる評価

5.2.5.2.4 に加えて、「震源を特定せず策定する地震動」として、実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈 別記 2 に示される、震源近傍の多数の地震動記録に基づいて策定された地震基盤相当面（せん断波速度 $V_s=2200\text{m/s}$ 以上の地層をいう。）における標準応答スペクトルを考慮して地震動を設定する。地震基盤相当面における標準応答スペクトルを第 5.2.5-55 図に示す。

標準応答スペクトルを考慮した地震動は、地震基盤相当面で策定された標準応答スペクトルに適合する模擬地震波を作成し、第 5.2.5-24 表に示す地下構造モデルを用いて、敷地の解放基盤表面の地盤物性の相違による影響等を考慮して設定する。

標準応答スペクトルを考慮した地震動の設定に用いる地下構造モデルは、敷地の「3. 地盤」に示す地下構造調査結果及び既往文献等 (71)(74)(75)を踏まえ、敷地の鉛直アレイ観測で蓄積した記録を重視して設定した。

標準応答スペクトルを考慮した地震動を第 5.2.5-56 図に示す。標準応答スペクトルを考慮した地震動の応答スペクトルは、5.2.5.3 の基準地震動 Ss1-D に包絡される。

第 5.2.5-24 表 標準応答スペクトルを考慮した
地震動の設定に用いる地下構造モデル

(a) 水平動

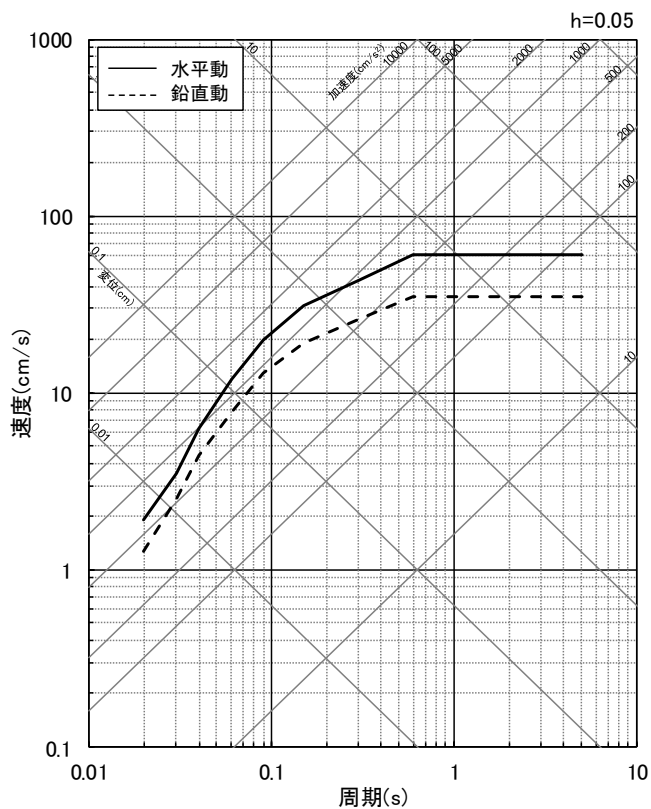
層	標高	Vs (m/s)	ρ (g/cm ³)	Qs [*]	
	(m)			Qo	n
1	-14	773	2.06	7.69	1
2	-48	831	2.09	7.69	1
3	-145	978	2.12	7.69	1
4	-354	1045	2.09	7.69	1
5	-493	1201	2.09	22.73	1
6	-739	1486	2.27	22.73	1
7	-1094	1759	2.31	22.73	1
8	-2050	2150	2.46	100	0.7
9	-3550	2470	2.53	100	0.7

(b) 鉛直動

層	標高	Vp (m/s)	ρ (g/cm ³)	Qp [*]	
	(m)			Qo	n
1	-14	1961	2.06	2.28	1
2	-24	2239	2.09	2.28	1
3	-145	2197	2.12	2.28	1
4	-405	2203	2.09	10.20	1
5	-621	2525	2.23	10.20	1
6	-884	3037	2.27	10.20	1
7	-1154	3440	2.31	10.20	1
8	-2050	3990	2.46	100	0.7
9	-3550	4470	2.53	100	0.7

$$*Q(f)=Q_0 \times f^n$$

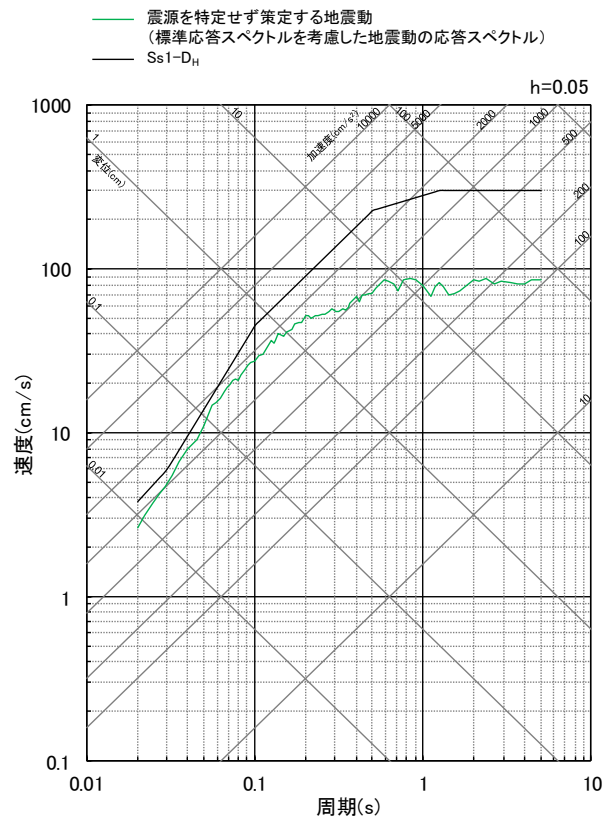
- T.P.-14m を解放基盤表面， T.P.-3550m を地震基盤相当面とする。
- 1～7 層 (T.P.-14m～T.P.-2050m) は， 地下構造調査結果及び既往文献等を踏まえ， 大深度観測点における鉛直アレイ地震観測 (T.P.-1447m 以浅) により得られた記録の伝達関数を対象とした逆解析に基づき設定。
- 8,9 層 (T.P.-2050m 以深) は， 敷地の地震観測によって記録が得られていないことから， 地下構造調査結果及び既往文献等に基づき設定。



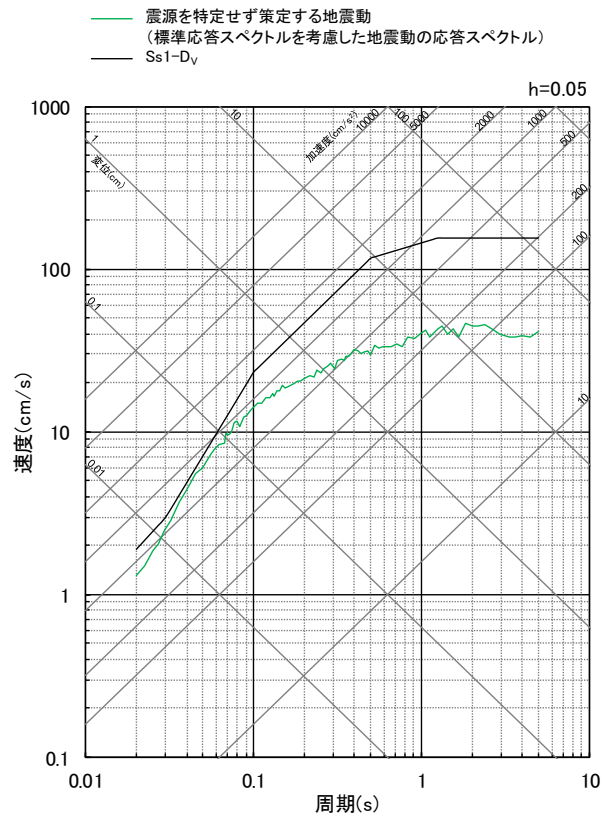
コントロールポイント

周期 (s)	水平動	鉛直動
	擬似速度 (cm/s)	擬似速度 (cm/s)
0.02	1.910	1.273
0.03	3.500	2.500
0.04	6.300	4.400
0.06	12.000	7.800
0.09	20.000	13.000
0.15	31.000	19.000
0.30	43.000	26.000
0.60	60.000	35.000
5.00	60.000	35.000

第 5.2.5-55 図 地震基盤相当面における標準応答スペクトル



(a) 水平動



(b) 鉛直動

第 5.2.5-56 図 標準応答スペクトルを考慮した地震動